

意見書案第1号

シルバー人材センターに対する支援を求める意見書

令和4年6月28日提出

提出者

光市議会議員 森戸芳史

賛成者

光市議会議員 萬谷竹彦

光市議会議員 木村信秀

光市議会議員 河村龍男

光市議会議員 田中陽三

シルバー人材センターに対する支援を求める意見書

シルバー人材センター（以下「センター」という。）は、高齢者等の雇用の安定等に関する法律に基づき設立された公的団体であり、地域の日常生活に密着した就業機会を提供することなどにより、高齢者の社会参加を促進し、高齢者の生きがいの充実、健康の保持増進、ひいては地域社会の活性化、医療費や介護費用の削減などに貢献している。

令和5年（2023年）10月に、消費税において適格請求書等保存方式（いわゆるインボイス制度）が導入される予定となっているが、同制度が導入されると、免税事業者であるセンターの会員はインボイスを発行することができないことから、センターは仕入税額控除ができなくなり、新たに預かり消費税分を納税する必要が生じる。

しかし、公益法人であるセンターの運営は収支相償が原則であり、新たな税負担の財源はない。

人生100年時代を迎え、国を挙げて生涯現役社会の実現が求められる中、報酬よりも社会参加・健康維持に重きを置いた「生きがい就業」をしているセンターの会員に対して、形式的に個人事業者であることをもって、インボイス制度をそのまま適用することは、地域社会に貢献しようと努力している高齢者のやる気、生きがいをそぎ、ひいては地域社会の活力低下をもたらすものと懸念される。

センターにとっては、新たな税負担はまさに運営上の死活問題である。

よって、国におかれては、センターから会員へ支給する配分金について、仕入税額控除の特例等を適用させるなど、センターの安定的な事業運営に支障の生じることのないよう適切な措置を講ずるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年6月28日

光市議会

提出先

衆議院議長	殿
参議院議長	殿
内閣総理大臣	殿
財務大臣	殿
厚生労働大臣	殿
経済産業大臣	殿